

ハンドブック ワンポイント レッスン

知っておきたい規則とルール

Question

昨年10月下旬に韓国聞慶市（ムンギョン市）で開催された世界ソフトテニス選手権大会の応援ツアーに参加しました。その際審判の対応で疑問を感じる場面がありました。国際大会ですので日本国内の大会と異なる部分もあるかもしれませんが質問させてください。

ミックスダブルスの9ゲームマッチで、ゲームカウントは2-3でポイントカウント1-3だったと思います。アンパイヤーは韓国の方で正審が男性（サングラスを掛けていました）、副審は女性でした。ライトサービスコート（正審に近いサービスコート）へのファーストサービスがサービスサイドラインに触れたかどうかの微妙な判定でした。サービスは強烈でレシーブをするプレーヤーはそのボールに触れることが出来ませんでした。

しかし、正審はフォルトのコールをしました。その判定にサービスペアから判定の確認の質問が出ましたが正審はまったく受け付けませんでした。サービスペアも引き下がらずマッチが中断しました。しばらくすると副審の方が落下点付近に確認に行きその場で「アウト」のサインを出しました。コートはクレーコートでラインは白テープでしたのでかなりはっきり痕跡が残っていたのではないかと思います。私はスタンドで観戦していましたので痕跡までは確認できませんが、通路に接したコートでしたので多くの観戦者がフェンス越しに見ており、その観戦者等からはブーイング（サービスはインである）が起きました。サービスペアは再度正審に痕跡を確認してほしいと粘ったので、正審はイエローカードを出しました。その判定に対しサービスペアはベンチに戻り再開しようとしませんでした。正審は通訳を通して再開するように促しましたが再開しないまま中断が続きました。

しばらくしてレフェリーがコートに来て再度再開を促しました。その時サービスペア国のチーム監督がコートに入ってきてプレーヤーに外に出るように指示を出し、サービスペアは荷物をまとめてコートの外に出てしまいました。結果としてボイコット試合のような結果ですが、この場合、失格ではないかと思いますが、記録では0-⑤と表示されているだけで棄権・失格の記号も記載されていませんでした。この対応で正しいのでしょうか。

Answer

現行ソフトテニスハンドブックは国際ルール（トスのやり方以外）と同一になっていますので、国際大会での質問・提訴はハンドブック通り対応することになりますし、記録の仕方もR・Dの記号が記載されるのが正しい。

今回のような事例は国内でも見かける光景ですが、対応についてどこに問題があるのか現行ソフトテニスハンドブックに従ってひも解いてみましょう。

まず、正審がサングラスをかけている事については、身体上で認めているとすれば止むを得ないが出来ればサングラスは掛けない（裸眼）でアンパイヤーを務めるこ

とを原則としています。次に、正審がサービスの落下点でサービスサイドラインに触れていないとの判断でフォルトの判定をした事に対し、サーバー側から判定の確認の質問がありました。正審が受け入れなかったようです。質問をしたが受け入れてくれない事に対しサーバー側はプレーを中断（連続プレーに違反）しています。

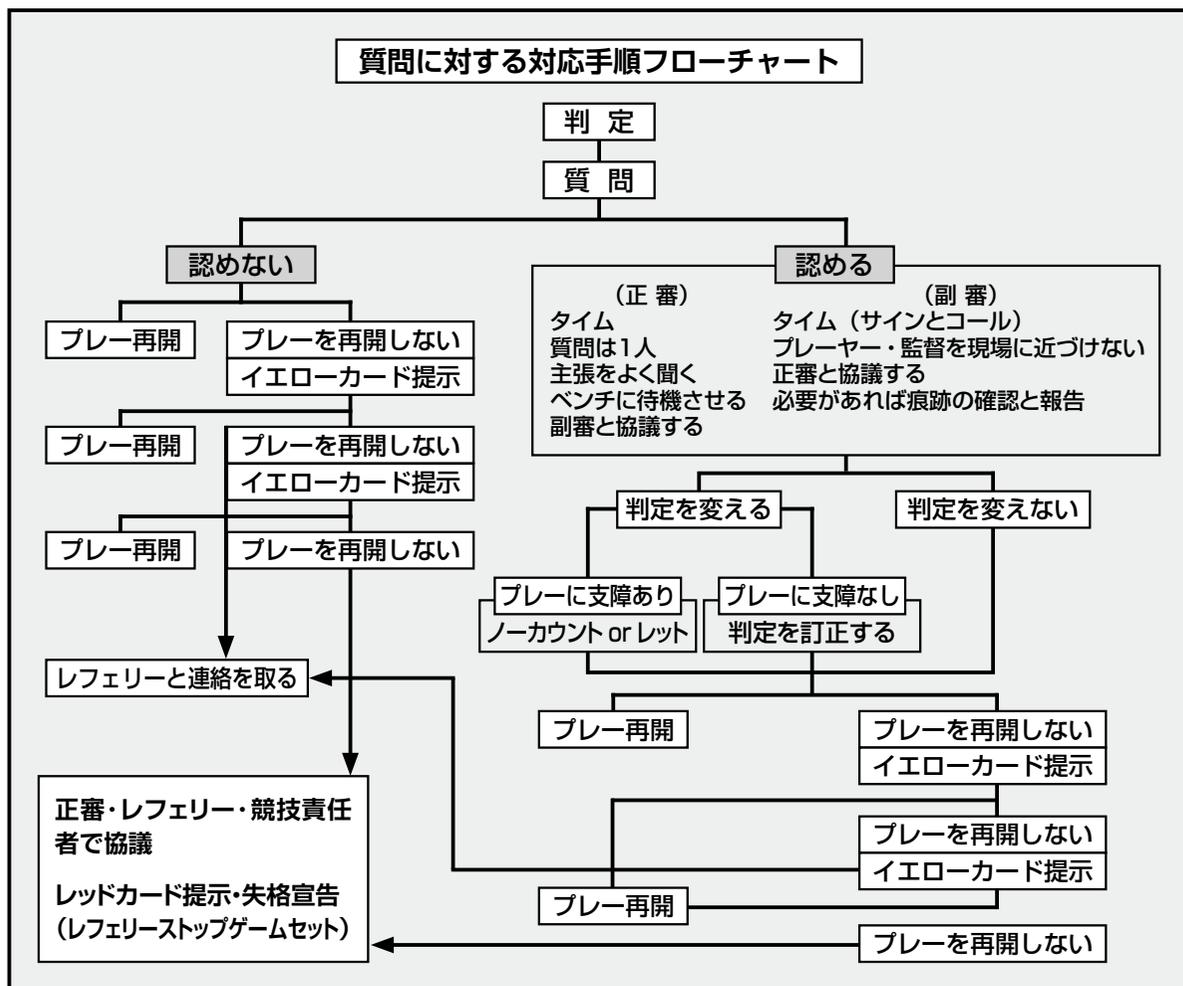
質問の文面からは読み取れませんが、正審からはサーバー側のプレイヤーにプレーをするようにコールがあった事と思います。しばらくして、副審が正審を補佐しようと思ってか痕跡を確認した後資料を正審に提供することなくその場でサインをしています。この副審が痕跡を確認した後、正審から再判定を下し、その再判定後にサーバー側から再度の質問がありその質問に対して異議とみなされイエローカードが出されたのではないのでしょうか。

前段の部分について、質問者からは質問に対する対応が不親切に受け取られる様に見えたようですが、アンパイヤーの判定ははっきりフォールトと判定を下しているの、あえて確認をする必要がないと毅然とした態度であったと思われます。イエローカードが提示され、プレイヤーはベンチに戻りプレーが中断したので、正審は通訳を通じプレイヤーにプレー再開を呼びかけたが動く気配もなく、レフェリーを呼びに行っていた空白の時間とが重なり、レフェリーが到着した時はすでに監督（指導者）の指示によりプレイヤーはコート外に出る準備をしていたよう

で、レフェリーの再開にも応じず荷物を持ってコート外に出てしまったようです。

この事例では、個人戦にもかかわらず監督（指導者）がコート内に入り、抗議（質問）する場面があったようですが、フォールトの判定に対して指導者（監督）がコートに入っていく事はルールを無視した行動であり異常な雰囲気に見受けられます。なお、アンパイヤーはまさかと思ってイエローカードを出すどころか、当初制止さえ出来ていなかったように受け取れます。とても残念な結果になってしまい禍根を残した事例と言えましょう。

ところで、マッチの結末はどう処理されたのか、終了のあいさつがなかったのであやふやなまま終了している様に記載されています。その証が0-⑤です。質問に対する対応手順（フローチャート参照）によりしっかりと対応すべき（判定を下すべき）で、記録はRかDと判定を下し、採点票に正しく記録し進行に引き継ぐべきでしょう。なお、記録は大会運営規則第15条【プログラム等への成績記載】に従い記載することになります。



さて、国際大会を振り返ってみますと、国際大会は各国から国際審判員としての心構えを持たれた権威と格調高い認識の者の集合体が担当しています。この度の審判団は、レフェリーは韓国・日本・中国・中華台北でレフェリー長は開催国の韓国の方でした。アンパイヤーとしての共通語は英語ですが、日常会話は各国の言葉で行われています。会場が韓国でしたので、大多数のアンパイヤーは韓国語で会話をされ、海外から集まったレフェリー及びアンパイヤーは韓国語が話せず、一方通行の感があったように思われ韓国語が十分伝わらない事が多かった様です。

各国からよりすぐられたアンパイヤーは、大会の前日から研修を積み共通理解と解釈を持って、レフェリー長の下で現場を任せられ責任を持って任務を遂行して行くのが現状です。今回の質問（提訴）に対し、正審が非常に冷たい態度で厳しい対応の様に受け止められています。当り前でアンパイヤーが男子であれ女子であれ国際審判員として任務を遂行していたと思われまます。これはアンパイヤーとしての百戦錬磨な経験者が、自信に満ちた豊富な知識と技術を持ち合わせており、「アンパイヤーゾーン」と呼ばれている緊張度を保った環境の中で全体の雰囲気から心や身体も充実し、平素見るアンパイヤー像より超越しており、毅然とした態度で判定を下した結果だったと思います。

権威を持ったアンパイヤーがフォールトと判定を下し、その判定に疑問を持ち質問をしたけれど応じてくれないので、予想に反してイエローカードが出された事は、観戦者から見て情（血も涙もない）がないと思われるでしょうが、毅然とした態度でフォールトの判定を下し、再判定後の質問は「判定は変わらない」ので異議とみなし、「イエローカード」を提示したことは競技規則に基づき当然の事でしょう。ただ、コート付近で観戦していた観衆がフォールトの判定に疑問を持った様で、多くの観衆から判

定に対するブーイングがあったことは事実でしょうがブーイングがあったからと言って、ブーイングに惑わされる様なアンパイヤーではありませんでした。そこで、質問をしたプレーヤーは判定とアンパイヤーの態度に不満を持ちベンチに戻りプレーを中断した事は、駄々をこねている子供のように受け取れます。気持ちを切り替えてプレーするのがスポーツマンです。今回は国際大会なので言葉の壁があったと思いますので、正審は通訳を通じてプレーをするように促しておりますし、レフェリーも再開するように指導された結果、判定を見ていた指導者（チームの監督さん）があってはならない事ですが、プレーヤーに何らかの指示をしたようでコート上から荷物を持って姿が見えなく（退場し）なり、誠に残念な結末になったと思います。ちなみに、国別対抗の時でなかった事が何より救われる事ですが、歴史に残る出来事となってしまいました。

そこで最後に記録について、今回は決着が0-⑤で記録が公表されていますが、大会運営規則第15条【プログラム等への成績記載】、[解説29]大会記録の記入方法【棄権の場合の記入方法】に基づいて、棄権として処理したなら該当プレーヤーに（R）と記入し2ゲーム取得していたので、スコアをR2-⑤と記載する。又失格にしたならば、【失格の場合の記入方法】に基づいて、失格の時点で名前とすでに得たゲーム数字を赤の2本線で消し、最終対戦時点でDと記入し大会記録として載せるのが正しいやり方です。

国内の大会ではこのような事がない様にアンパイヤーとしても研修を積みルールの解釈と適用に精通し、質問に対する対応手順をよく理解して、プレーヤー・指導者共々フェアプレーでプレーすると共に大会運営に協力しましょう。

【関連規則】

競技規則第25条（サービスのフォールト）、競技規則第34条（判定）、競技規則第38条（禁止行為）

競技規則第39条（棄権）、競技規則第40条（異議の申立て等の禁止）、競技規則第41条（警告）

競技規則第42条（失格）2（3）、競技規則第43条（提訴）

審判規則第13条（判定の連携）、審判規則第12条（判定の確認）

審判規則第14条（再判定）、審判規則第20条（警告）、審判規則第21条（失格）2（3）

大会運営規則第15条（プログラム等への成績記載）

【ジュニア審判マニュアル】

競技規則について

7. サービス（5）サービスがフォールトとなるのはどんなときか？ ①、10. 判定、14. 禁止事項

15. アンパイヤーの判定に異議がある場合はどうしたらよいか？（質問）

16. 棄権になるのはどんなときか？、17. 警告、18. 失格になるのはどんなときか？（4）

審判規則について

4. 判定の確認と連携、5. プレーヤーから質問があったときは？（再判定）